

No.	6
策定年月	令和3年7月
見直し年月	令和3年8月

## 麦・大豆産地生産性向上計画 北上地域 (作成主体:北上市農業再生協議会)

### 1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

北上市は、全水田面積に対して主食米の作付割合が約6割を占める水田地域である。近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が進む状況を踏まえ、団地化による効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

湿田等の圃場条件の悪い水田を担い手が借入し、転作に取り組む事例が多数見受けられるため、先進的な営農技術の導入による湿害・地力低下の対策を図り、単収の向上及び安定、作業の効率化を実現する。

現在、北上市においては、地域農業マスタープランや経営所得安定対策などにより、農地の集積・集約化、転作の推進等に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

本地域の麦の主力品種である「ナンブコムギ」は生産のほぼ全量(約700トン)、また、本地域の大豆生産の半数以上を占める品種である「リュウホウ」はほぼ全量(約800トン)を、花巻農業協同組合にて集荷し、そのすべてを全農を経由して県内外の製粉企業や、豆腐・豆乳企業等に向けて販売されている。  
しかし、実需者の需要量を生産量が満たしておらず、需要に応じて増産を図る必要がある。

### (2) 生産における現状と課題

近年、作付面積は麦・大豆ともに増加傾向で推移しているが、単収は低下傾向、地域内の団地化率は、麦が2.1%、大豆については4.4%となっている。  
単収低下の原因として、連作による地力低下等が考えられ、収量を向上させるためには、土壌診断に基づいた施肥や土壌改良資材の施用等が課題となっている。  
また、排水不良も単収低下の大きな要因となっており、排水対策が必要となっている。  
さらに、近年は担い手への農地の集積が急速に進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしている。  
その際、湿害等の条件が悪い圃場についても、担い手に集積される傾向にあることから、溝掘機などの機械の導入による排水対策などを取り、安定した収量を確保した上で、団地化を推進していく必要がある。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	ナンプコムギ	427	426	445	139	133	139	594	567	619
	銀河のちから	4	134	137	516	299	305	19	401	418
大麦										
作物計		431	560	582	142	173	178	613	967	1,036

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆	一括	781	804	869	136	130	126	1,062	1,045	1,095
作物計		781	804	869	136	130	126	1,062	1,045	1,095

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

## ② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	ナンブコムギ					5	1.1%	令和2年産以前は把握していない。
	銀河のちから					7	5.1%	令和2年産以前は把握していない。
大麦								
作物計						12	2.1%	

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	一括					38	4.4%	令和元年産以前は把握していない。
作物計						38	4.4%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

岩手県における基準と同様に、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としている。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。